

時代の架け橋

登録文化財 綾部大橋の76年

③



西村さんにとって「綾部橋」はかけがえのない存在になっていく(味方町で)

今は「綾部大橋」の名設では、潜水服を着た人面には、西村さんの足跡も刻み込まれた。で市民に親しまれているたちの姿が「火星人のよが、味方町の西村勝美さん(84)にとっては「綾部橋」の方が馴染み深い。現在の橋が建設されたのは西村さんが小学生のころ。当時低学年だった西村さんは、現在地より6〜7段下流に架かっていた

西村さんは、現在地より6〜7段下流に架かっていた

西村さんは、現在地より6〜7段下流に架かっていた

昭和の時代を共に歩んだ綾部橋

た木造の綾部橋を通過すると完成当時は茶色。綾部尋常高等小学校へ通学していた。途中、橋の上で足を止めては新しい鋼鉄製の橋が造られていく過程を見守り続けた。

西村さんは毎日、綾部橋を通過して小学校と福知山商業学校に通学。卒業後は大蔵省に勤めるが、戦争が始まると憲兵として中国へ。終戦後の昭和21年に帰国した際、「列

高くと見上げながら通学した。『すごい橋ができたよるな』と子ども心ながら驚いた。橋脚の建設が、まだコンクリートが乾ききっていなかった路が、チラッと見えた綾部だ。

西村さんは、現在地より6〜7段下流に架かっていた

西村さんは、現在地より6〜7段下流に架かっていた

(岡田圭司記者)